水道・交通委員会資料令和3年5月31日交 通 局

交通局の安全の取組について

I 交通局における安全の取組の全体像

1 運輸安全マネジメント制度に基づく継続的な改善

平成 17 年の J R西日本福知山線の脱線など、運輸事業におけるヒューマンエラーを原因とする事故等が多発したことを受け、平成 18 年から、運輸事業者が自ら安全管理体制を構築・改善することにより輸送の安全性を向上させることを目的とした運輸安全マネジメント制度に基づき、安全管理体制の継続的な改善(輸送の安全確保に関する施策の「計画(P)」、確実な「実施(D)」、進捗状況や結果の「評価(C)」、必要な「見直し(A)」)に取り組んでいます。



2 安全風土の醸成と安全教育

すべての職員の安全に対する意識高揚を図り、安全最優先の組織風土を醸成するため、局長が 現場に赴き職員と直接意見を交換する局長研修を行います。また、過去の事故を風化させないた め「交通局安全大会」の開催や、安全第一の組織風土づくりに向け、全職員を対象に「安全研修」 を実施します。

3 職員の健康管理と働きやすい職場づくり

健康診断や睡眠時無呼吸症候群(SAS)スクリーニング検査結果に基づくフォロー等、職員の健康管理に取り組みます。

バス・地下鉄の現場においても育児や介護など仕事と家庭を両立できる働きやすい職場づくり を進めます。

Ⅱ 中期経営計画に掲げた目標と目標達成に向けた3年度の取組指標

「2019~2022年度市営交通中期経営計画」において、目標値を設定しています。

項目	計画策定時	目標値 (4年度末)
【バ ス】重大事故につながる事故の撲滅 (歩行者、自転車との接触事故)	10.75 件/年 (平成 27~30 年度平均)	0件/年
【地下鉄】30 分以上の本線支障 (自然災害等の外部要因を除く)	3.75 件/年 (平成 27~30 年度平均)	3件以下/年
職員の安全意識向上の定着度 (職員アンケート「安全とお客様サービスを最優先に仕事をしているか」という設問に対し、「非常に当てはまる」 「ほぼ当てはまる」と答えた職員の割合)	80% (平成 30 年度)	88%

※ 目標の達成に向け、それぞれの事業の3年度安全重点施策で取組指標を定めています。

	3年度取組項目		3年度指標
歩行者との接触事故		0件	
バス	自転車との接触事故		0件
	車内事故(発車反動、ドア挟圧)		5件以下
	静止物との接触事故		160 件以下
	運転事故・重大インシデント		0件
地下鉄	運行にかかる工事事故	0件	
	30 分以上の本線支障(自然災害を除く)		3件以下
	3分以上の本線支障	職員起因	7件以下
		車両故障	20 件以下
		電気故障	0件

Ⅲ 安全運行に係る公表の目安

安全重点施策で指標件数達成のため取組計画に基づき取り組んでいますが、万一、事故が発生した場合には、概要等について、公表基準に基づきお知らせします。

【バス】

- ・お客様や歩行者などに重傷者、多数の負傷者が生じた事故が発生した場合
- ・運行ミスや車内点検不履行によるお客様の車内閉じ込めなどでお客様に多大なご迷惑をおかけし た場合 など

【地下鉄】

- ・人身事故、全線運休、折り返し運転など、お客様への影響が著しい輸送障害が発生した場合
- ・駅通過などの運転操作ミスや、ドア挟み事故など負傷事故が発生した場合
- ・エレベーター故障で長時間、お客様の閉じ込めが発生した場合 など

安全重点施策取組実績

【バス】

取組項目	平成30年度	令和元年度	令和2年度
歩行者との接触事故	8件	3件	6件
自転車との接触事故	3件	1件	2件
車内事故(発車反動・ドア挟圧)	8件	15件	12件
静止物との接触事故(車両・施設)	229件	208件	192件

【地下鉄】

取組項目	平成30年度	令和元年度	令和2年度
鉄道運転事故・重大インシデント	0件	2件	0件
運行にかかる工事事故	0件	0件	0件
30分以上の本線支障	6件	2件	4 件
3分以上の本線支障			
職員起因	16件	12件	8件
車両故障	17件	26件	22件
電気故障	4件	1件	5件